

供 与 備 品 表

机 1 台

椅子 1 台

令和 年 月 日			曜日		天候				項目		時		8 時		9 時		1 1 時		1 4 時		1 7 時		
課 長		係 長		係		ボ イ ラ ー 技 士						外 気 温 度		℃		℃		℃		℃		℃	
												室 内 温 度		℃		℃		℃		℃		℃	
ボイラー稼働・機室状態	ボイラー＼ 時間帯			7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18												延 時 間		記 事					
	ボイラー				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分						
	ボイラー				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分						
	不良箇所			処 置						修 繕 等				消 耗 品									
														品 名		受		当日使用量		残			
														A 重油		ℓ		ℓ		ℓ			
引継事項																							
													煤 煙 測 定 濃 度										
箇所別送気状況	箇所 \ 時間帯			7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18												延 時 間		記 事					
	事務室				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分						
	所長室				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分						
	X線室				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分						
	会議室				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分						
	母子相談室				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分						
	栄養相談室				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分						
	診察室				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分						
	細菌検査室				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分						
	器材室				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分						
会議室 1・2階ホール				⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	時間 分							

課 長	係 長	係

ボ イ ラ ー 月 例 点 検 記 録

点検年月日 令和 年 月 日		点検者氏名印 <div style="text-align: right;">㊞</div>				
点 検 項 目 及 び 点 検 事 項		状 態		異 常		状 態 と 措 置
		良	否	有	無	
ボイラー本体の損傷						
燃 焼 装 置	バーナの汚れ又は損傷					
	ストレーナのつまり又は損傷					
	バーナタイル及び炉壁の汚れ又は損傷					
	煙道の漏れ・その他の損傷及び通風圧の異常					
自 動 制 御 装 置	起動及び停止の装置の機能の異常					
	火炎検出装置の機能の異常					
	燃料しゃ断装置の機能の異常					
	水位調節装置の機能の異常					
	圧力調節装置の機能の異常					
	電気配線の異常					
附 属 装 置 及 び 付 属 品	給水装置の損傷					
	給水装置の作動の状態					
	蒸気管及びこれに附属する弁の損傷					
	保温の状態					
	水処理装置の機能の異常					
そ の 他	ばい煙の測定濃度及び、ボイラー取扱中における異常の有無					

暖房業務処理要領（案）

- 1 受託者は、庁舎の暖房装置の運転及びその管理並びに付随した業務を実施する。

業務対象ボイラー

設置場所	根室振興局中標津地域保健室庁舎（延床面積837㎡）		
ボイラーの種別	鋳鉄製組合式蒸気		
伝熱面積	3．76㎡	最高使用圧力	0．098MPa
型 式	昭和SAD-308SA	使用燃料	A重油

- 2 庁舎建物内の温度及び湿度に注意を払い、最も経済的効率があるように作業に務める。
- 3 ボイラー使用については、危害防止に万全の注意を払うとともに、ボイラーは、常に万全であるように整備しておくものとし、次に定めるところにより業務を行うものとする。
 - (1) ボイラー及び圧力容器安全規則に定められた事項は、確実に実施する。
 - (2) 所轄労働基準監督署に対する手続事項は、受託者において行うものとする。
 - (3) 保守点検については、毎月1回実施し、報告する。
 - (4) 平日の通気時間は、午前7時30分から午後5時20分までとし、午後5時30分までに全ての機器の運転を停止する。
 - (5) 厳寒期（12～2月）に2日以上閉庁日が続く場合には、閉庁日の2日目に、それ以降は1日おきに凍結防止のため、午後1時から午後2時50分まで通気し、午後3時までに全ての機器の運転を停止する。
 - (6) 暖房装置凍結の恐れがある場合は、その都度、委託者と受託者とが協議を行い、凍結防止対策を講じ、適正な運転を行えるよう努める。
 - (7) 時間外の通気については、別に協議する。
 - (8) 委託業務を処理するための室を別紙図面のとおりに指定する。
 - (9) その他処理要領に定めのない事項については、その都度、委託者と受託者とが協議のうえ決定する。